真光寺川を清流にする会

3カ月ぶりの清掃活動に同行

町田市真光寺町から川崎市麻生区に流れる鶴見川水系の一級河川「真光寺川」（総延長2・25キロ）はかつて清流だったが、周辺の開発が進み、次第に生活排水が流れ込んで汚染が目立つようになった。近年は下水道が整備され、次第に水質は改善していたが、一方でごみの不法投棄が後を絶たない。これを改善しようと00年に立ち上がったのが「真光寺川を清流にする会」。昨年12月以来3カ月ぶりに行われた3月の清掃活動に同行した。【松本惇】

東京見聞録

子供たち遊ばせたい

3月13日午前9時半。青空の下、真光寺川のほぼ中流にある町田市能ケ谷4の下堰親水広場に11人のメンバーが集まった。この日は、近くの「みどりの森保育園」の鈴木雅人園長(47)も活動に参加。山口拓郎会長(80)が「3カ月分のごみがたまっているので、よろしくお願いします」とあいさつし、参加者がそれぞれの担当する地域に分かれて作業を開始した。

川崎市麻生区の鶴見川との合流点からの区域を担当する桜井文夫さん(74)は、腰まで入る渓流釣り用の長靴を慣れた手つきではいてスタート。スーパーのポリ袋やペットボトル、たばこの吸い殻などをトングで取り、腰に下げた袋に慣れた手つきで入れていく。時には腰まで水につかり、ごみがないかを注意深く探しながら川の中を歩いた。途中で川底に埋まったタイヤを見つけたが、流れてきた泥に埋まっており、撤去はあきらめた。まだ十分使えそうなサッカーボールも見つかった。

桜井さんは、80年ごろに町田市に引っ越してきたが、当時の真光寺川について「ものすごく汚く、魚などいなかった」と振り返る。「家には寝に帰るだけだった」というが、01年に土質調査業の仕事をリタイアしてからは、真光寺川沿いを散歩するようになった。以前よりも川がきれいになり、オイカワなどの小魚が泳いでいるのも見かけたが、ごみも多く落ちていた。清流にする会の活動を知り、「仕事もやめたので、掃除ぐらいは手伝いたい」と、5～6年前から活動に参加するようになった。

集められたごみの中には自転車やビデオデッキもあった＝町田市能ケ谷4で

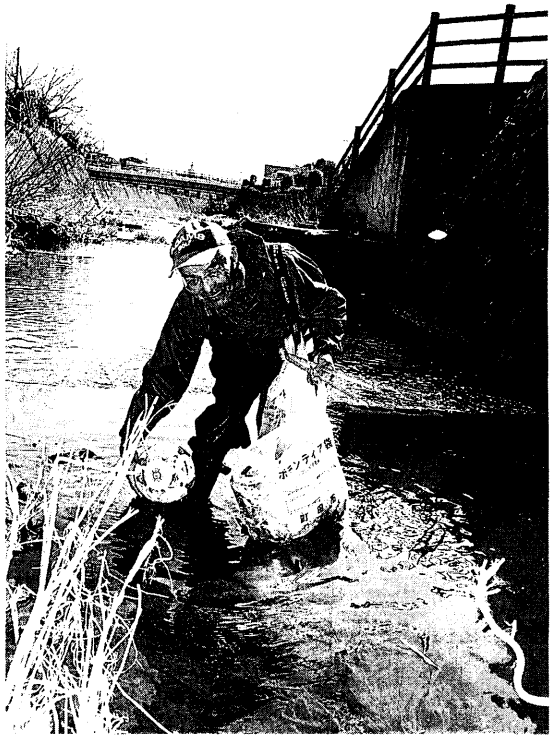
この日の清掃は午前11時過ぎに終了。桜井さんの担当エリア以外からは、自転車やビデオデッキなどの粗大ごみが見つかった。桜井さんは「今日はごみが多くて全部拾えなかった。モラルのない人が捨てていくのだろうが、地道に活動を続けて訴えていくしかない」と話した。

活動終了後、普段は参加メンバーでミーティングを開くが、この日は「みどりの森保育園」に移動して鈴木園長と意見交換。山口会長が清流にする会の設立の経緯やこれまでの活動について報告した後、「水質は専門家に依頼して毎月調べている。子供たちが遊べるような水質にしたい」と意気込みを語った。鈴木園長は昨年5月にオープンした保育園の概要を説明。「保育園としても地域貢献をしたいと考えているので、よろしくお願いします」とあいさつした。

その後の意見交換では、清流の会が毎年夏に子供たちを対象に開催している「真光寺川まつり」を、今年は保育園の夏祭りと合同で開くことで合意。同会からは「お手玉を寄付します」「地域の見守り活動を始めよう」などの声も上がった。

鈴木園長は「こんなに近くに川と親水広場があるので、子供たちを遊ばせたいと思って声をかけた。子供にとっても、地域交流の機会があるのはいいこと。これからも交流を続けていきたい」と語る。山口会長は「地域一体となって活動したいと思っていたので、声をかけてもらえてうれしい。今後も活動の輪を広げていきたい」と話している。

「5月には川の上にこいのぼりを揚げたい」と話す鈴木園長。子供たちの姿などなかった真光寺川に歓声が上がる日も、そう遠くないかもしれない。



川に落ちていたサッカーボールを拾う桜井さん＝川崎市麻生区の真光寺川で

環境講座がきっかけ

メモ

真光寺川を清流にする会は、まちだ市民大学で「町田の環境」講座を受講した人らを中心に00年1月、有志8人で発足。現在は50～80代の約40人が会員登録している。冬季間の1～2月を除く毎月第2日曜の清掃作業が活動の中心で、他にも市内の小中学校などを対象に出前授業を開いたり、毎年夏には「真光寺川まつり」を行っている。また川沿いの5カ所に「めだかポスト」を置き、付近住民からの意見やカンパなども募っている。